

第7章 モデル事業の取組の効果

1. モデルケースの支援から明らかになった効果

(1) 早期からの計画的な支援は、病院スタッフと家族の退院への意識づけとなった

児の状態や家族の養育力を早期に捉え、多職種チームでアセスメントし、その一人一人にあった支援計画を作成し、早期から時間をかけて寄り添い支援したことにより、スタッフの退院支援に取り組む意識が促された。

支援計画に沿って実施した内容は、カンファレンスを通して評価、計画の修正等を行い実施した。その結果、家族の児への愛着形成や退院への意欲を高めることができた。

(2) 在宅シミュレーションの実施により、家族の在宅生活のイメージ形成が可能となり、児への愛着形成や在宅療養への不安軽減に繋がった

児の病状や医療ケアの程度が重いほど、家族の退院後の不安は大きかった。院内施設を利用し、在宅での生活を想定して、児と家族だけで宿泊するなど一緒に過ごす時間を作り、医療ケアや哺乳、沐浴などを試行したことにより、家族が児の一日の様子を知ることができ、家族の在宅生活のイメージ形成に繋がった。

また、在宅シミュレーションを通して、家族の児への愛着形成が促進され、家族の退院への意欲と自信に繋がった。退院に向け、養育力をあらためて評価できる機会にもなった。

さらに、小児科と連携して実施できたことは、児を小児科に知ってもらう機会になり、退院後の病状悪化時の小児科への受入体制の整備や、円滑な入院に繋がった。

(3) 長期入院しているモデルケースの退院が実現した

13名の児をモデルケースとして、NICU入院児支援コーディネーターを中心とした在宅等への移行支援を実施し、平成24年3月末現在、12名の児の退院が実現した。

2. NICU入院児支援コーディネーターの配置の効果

(1) 早期から要支援者の選定、支援が可能になった

NICU入院児支援コーディネーターの配置により、母体搬送受入や産科外来受診の時点からスクリーニングを実施し、家族の養育力評価を行うことにより、要支援者を早期から選定でき、低出生体重児や先天性疾患のある児などの出産に対する受入準備や、家族への支援を早期から行うことができた。

(2) 院内や地域の支援機関と一歩踏み込んだ調整ができた

NICU 入院児支援コーディネーターが、院内の産科、新生児科、小児科などの各診療科、入院や外来、各科医師や看護師など、部門や職種を越えた調整を行うことにより、院内の支援体制が促進された。

また、地域の支援機関との調整では、地域関係者に院内カンファレンスへ参加してもらうことや、院内から地域へ家庭訪問に向くなど、院内と地域を繋ぐ一歩踏み込んだ連携や調整を行うことができた。

その結果、入院中の情報で退院後も必要と考えられる情報や支援が、退院により途切れることなく、地域での支援に結びつけることができた。

3. 墨東病院と NPO 法人 Ohana の協働の効果

NICU の看護師経験を持ち NICU を退院した児の訪問看護を行っている Ohana が、墨東病院内に入り、院内において「NICU 退院前育児教室（はぐはぐクラス）」「スタッフ向け退院支援カンファレンス」「退院リーフレットの見直し」「退院準備 DVD の作成、活用」など協働して事業を行った。

(1) 取組全体の効果

NICU スタッフは、在宅ケアの経験のない者がほとんどであるため、NICU でみられる児の状態が、退院後にどう変化していくのか想像が難しいという現状があった。

そのような院内に、地域で在宅ケアを実施している Ohana が入り、NICU スタッフと一緒に、退院支援に関わる事業を協働実施したことにより、退院後の児と家族の在宅生活のイメージを持つことができ、退院後を見据えた支援を考える機会となった。

また、退院前に母親が抱きやすい育児の疑問や悩みに関して、NICU スタッフでは把握できないこともあったが、そこに、Ohana が入り、母親の疑問や悩みを聞き支援することで、家族が安心して退院を迎えることができた。NICU スタッフにとっても、その様な情報を知ることは貴重な機会となり、NICU スタッフにおける家族への育児支援や退院指導の強化に繋がった。

退院後の児や家族の状況についても、NICU スタッフへのフィードバックを行ったため、入院中の支援の振り返りや家族の喜びなども実感でき、NICU スタッフが退院支援に取組む意欲に繋がった。

(2) NICU・GCU スタッフの変化

NICU・GCU スタッフにとって、退院後の児や家族の状況を知る機会になり、スタッフ向け退院前カンファレンスには、継続して積極的に参加するスタッフや夜勤前の時間に参加するスタッフなどがでてきた。

4. 定量的効果

表3 定量的評価

| | 評価項目 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
|----|--------------------------|--------|-----------|--------|
| | | モデル事業前 | モデル事業実施期間 | |
| 1 | 平均在院日数(新生児科) | 35.4日 | 30.7日 | 29.2日 |
| 2 | 平均在院日数(産科) | 16.7日 | 15.9日 | 16.1日 |
| 3 | 150日以上長期入院児の数 *年度末現在 | 11人 | 5人 | 6人 |
| 4 | 1年以上長期入院児の数 *年度末現在 | 4人 | 1人 | 1人 |
| 5 | 周産期スクリーニング件数 | — | 936件 | 1021件 |
| 6 | 周産期支援件数 | — | 62件 | 40件 |
| 7 | 新生児特定集中治療室退院調整加算算定件数 | — | 5件 | 89件 |
| 8 | 母体搬送受入件数 | 166件 | 195件 | 213件 |
| 9 | 母体搬送断り件数 | 134件 | 100件 | 90件 |
| 10 | 新生児搬送受入件数 | 105件 | 97件 | 93件 |
| 11 | 新生児搬送断り件数 | 6件 | 35件 | 34件 |
| 12 | ケースカンファレンス(支援看護師が関わった件数) | — | 50件 | 50件 |

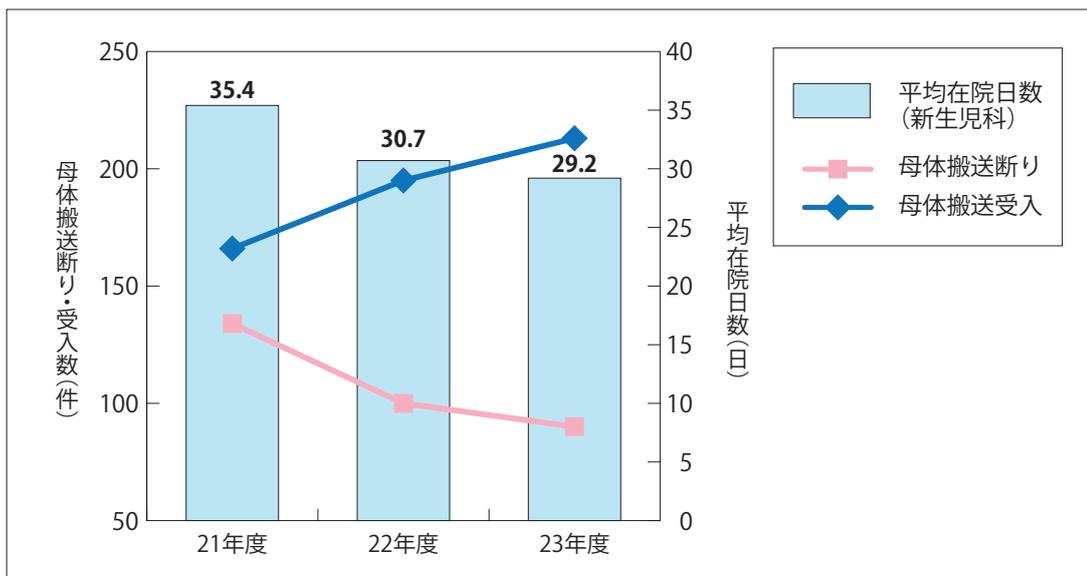


図24 定量的評価(新生児科平均在院日数、母体搬送断り・受入件数)